

沖縄市オープンデータ戦略基本方針

1 目的

沖縄市オープンデータ戦略基本方針(以下「方針」という。)は、本市の特色等を活かしたオープンデータの推進に関する戦略を定めることにより、データの利活用を促進し、もって地域の発展、行政の高度化・効率化等を図ることを目的とする。

2 本市の特性

第5次沖縄市総合計画において、将来像を「国際文化観光都市」とし、重点的に取り組むべき目標を掲げている。

「国際文化観光都市」

1974年10月26日、本市は、「健康で美しい沖縄市」「明るくて住みよい沖縄市」「平和で豊かな沖縄市」を市民の願い、望み、目標とする「国際文化観光都市」を宣言した。その後、まちづくりを推進する柱として、「スポーツコンベンションシティ」や「エイサーのまち」、「こどものまち」などの宣言をおこなうなど、本市の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいる。

一方、本市には米国や中国、南米など約50カ国以上の外国人市民が居住しており、多様な文化が混在する国際色豊かなまちである。また、エイサーをはじめ、ジャズやロック、民謡など、伝統文化と異文化が融合した戦後沖縄の文化でもひと際特徴的なコザ文化が醸成され、常に沖縄の戦後文化をリードしてきた。

国際色豊かな風土と、伝統文化と異文化が融合した個性的な文化は、「国際文化観光都市」の実現を目指す本市の貴重な資源であり、まちづくりの重要な財産である。

「重点目標」

市の異国情緒漂う街並みやライフスタイル、50カ国以上の外国人が暮らす国際色豊かな風土と、伝統文化と異文化が融合した個性的な文化を源泉に、内外を魅了するエンタテインメントとビーチ・フロント観光の創出で地域経済をけん引し、さらなる発展をめざす。

3 データセット作成に向けた取組

(1) 優先的取組

第5次沖縄市総合計画に掲げる「重点目標」を達成するために有用なデータセットの作成に、優先的に取り組むものとする。

(2) 基本的取組

共創のまちづくりを推進するため、市民、自治会、教育機関、NPOや企業等の多様な主体(以下「市民その他多様な主体」という。)におけるデータ利活用のニーズを把握し、利用者ニーズの高いデータを提供するものとする。

また、データセットは、以下のカテゴリーで分類し、作成するものとする。

- 1 平和・人権
- 2 文化・地域・交流(国内・国際)
- 3 スポーツ・生涯学習
- 4 こども・教育
- 5 福祉・健康
- 6 観光
- 7 経済・産業
- 8 環境
- 9 防災・防犯・安全
- 10 都市基盤・交通
- 11 市政情報・その他

4 データ利活用に向けた取組

(1) オープンデータ推進の意義、効果および取組について、周知、啓発するものとする。

(2) 国や県その他地方公共団体等と連携を図り、データ利活用がしやすい環境の構築に取り組むものとする。

(3) 市民その他多様な主体との連携を通じ、データの利活用を促進するものとする。

(4) 各課等においては、データ利活用により得られた情報を根拠として、業務の改善や高度化に取り組むものとする。

5 オープンデータの選定

オープンデータとして公開するデータの選定については、優先度の高い順から①～③で示す。

- ① 国が推奨するデータセットに該当するデータ
- ② 各課等で提供可能なデータ
- ③ 別の課等が必要とするデータ

6 その他

この方針は、社会情勢の変化等に応じ、見直しを行い、随時改訂していくものとする。

附 則

この方針は、令和4年12月13日から施行する。